

令和4・5年度 埼玉県教育委員会

埼玉県体力課題解決研究指定

令和4・5年度 三郷市教育委員会

教育課題推進研究委嘱

研究発表会

日程

受付（体育館入口）及び全校運動（運動場）	公開授業Ⅰ	公開授業Ⅱ	全体会（体育館）
13:30～13:50（受付） 13:35～13:50（全校運動）	14:00～14:45	14:55～15:40	15:50～16:30 （研究発表）

公開授業

	学年学級	授業者	単元名（領域）	場所
公開 授業Ⅰ	5年3組	松川 奈央	「打ってGO！ アタックティーボール」 （ボール運動 ベースボール型）	運動場
	6年1組	井上 慎一朗	「我ら、最強の鉄棒集団～最高の組み合わせ演技～」 （器械運動 鉄棒運動）	体育館
公開 授業Ⅱ	2年2組	小番 隼人	「彦成跳び箱忍者！」 （器械・器具を使っの運動遊び 跳び箱を使った運動遊び）	体育館

三郷市立彦成小学校

令和5年11月17日（金）

令和4・5年度
埼玉県教育委員会
埼玉県体力課題解決研究指定
三郷市教育委員会
教育課題推進研究委嘱



指導案綴 研究紀要

気力あふれる児童の育成

～運動好きを増やし、
目標や困難に立ち向かう力を
育む実践を通して～





あいさつ

三郷市教育委員会
教育長 大塚 正樹

子供たちが夢や目標をもち、自己実現に向けて歩みを進めていくために基盤となるのは、授業を通して身に付ける学力と体力です。「令和の日本型学校教育」では、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善をすることが求められています。

このような中、彦成小学校では令和4・5年度埼玉県体力課題解決研究指定校及び三郷市教育課題推進研究委嘱校として、「気力あふれる児童の育成～運動好きを増やし、目標や困難に立ち向かう力を育む実践を通して～」を研究主題に掲げ、研究を進めてられました。「運動大好きな児童の育成」を目指して、教師の働きかけや有効な教材・教具について検討し、実践を重ねられました。また、友達と進んで関わり合いながら学習を進めていく「価値あるざっくばらんな関わり合い」を取り入れて、児童の主体性を引き出し、資質・能力をバランスよく育む授業を推進しています。さらに、家庭・地域と連携し、教科外の活動にも力を入れ、運動に親しむことができる環境の充実を図っています。

本校の取組は、体育科のみならず全教科・領域の学びに通じるものです。参会者の皆様におかれましては、児童が主体的に学ぶ授業の在り方について、本日の発表を参考にしていただけたら幸いです。

結びに、佐藤孝祐校長先生をはじめ、彦成小学校の先生方の熱意溢れる取組に敬意を表するとともに、ご指導いただきました諸先生方、ご支援いただきましたPTAや地域の方々に深く感謝申し上げます、あいさつといたします。



あいさつ

三郷市立彦成小学校長

佐藤 孝祐

令和4・5年度「埼玉県体力課題解決研究指定」「三郷市教育課題推進研究委嘱」を受け、研究を進めて参りました。彦成小は45年間、「気力あふれる児童の育成」を研究課題とし、体育科の研究を進めて参りました。「気力」とは「志を明確にし、自分の生き方を自分で決め、他者と協調しながらも依存せず、目標や困難を自らの力で乗り越えていく力」であると考えております。そこで、その目的を達するため、「価値あるざっくばらんな関わり合い」を研究の中心に据え、授業改善に取り組んでまいりました。「価値ある」とは、学習目標を達成させることはもちろん、メタ認知力や思考力、コミュニケーションスキルなどの「非認知能力」も含まれます。むしろ、「非認知能力」こそが「個別最適な学び」と「協働的な学び」の融合、つまり「令和の日本型学校教育」を実現させる基盤となる力であると確信しております。

また、授業以外でも業前・業間運動などの運動機会、放課後彦成クラブや体力カードなどの家庭地域連携、月例授業による教員同士の高め合いなど、多様な場面で体育的活動を充実させてきました。発表にあたりましては、力及ばないところが多々あるかと存じますが、忌憚のないご意見・ご指導をいただければ幸いです。

結びに、ご指導いただきました埼玉県教育局県立学校部参事兼保健体育課長・松中直司様をはじめ埼玉県教育局の先生方、三郷市教育委員会教育長・大塚正樹様をはじめ三郷市教育委員会の先生方、その他、ご指導いただきました多くの諸先生方に感謝申し上げます、あいさつとさせていただきます。

● 研究の構想

■ 学校の教育目標

気力あふれる児童の育成

～家庭・地域と共に、児童の非認知能力を育む学校～

- ・たくましく じょうぶでがんばる子
- ・やさしく きまりを守り、助け合う子
- ・かしこく よく考え、自分から進んでやる子

■ 児童の実態

● 新体カテスト

A+B+C : 92.3% A+B : 69.4%

● 運動と外遊び好き : 90.8%

体 育 好 き : 94.0%

● 朝食摂取率 : 85.0%

(令和3年度調査より)

気力あふれる児童の育成

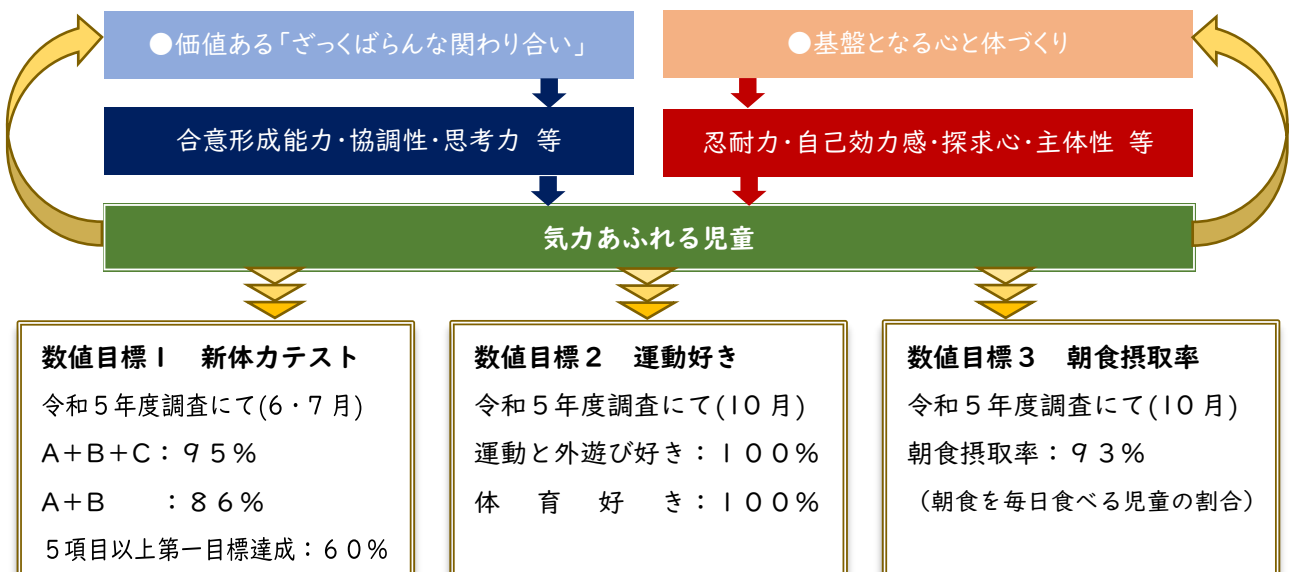
～運動好きを増やし、目標や困難に立ち向かう力を育む実践を通して～

気力あふれる・・・「運動が大好き」であり、「目標や困難に立ち向かう」姿のこと。

■ 研究の仮説

- 仮説1 : 「価値あるざっくばらんな関わり合い」を取り入れた授業を行えば、多様な資質・能力が生まれ、運動大好きな児童を育成することができるであろう。
- 仮説2 : 教科外での体育的活動を充実させれば、成功体験を積み重ねられ、目標や困難に立ち向かう児童を育成することができるであろう。

■ 「気力あふれる児童」育成までのイメージ図



仮説1. 価値ある「ざっくばらんな関わり合い」

※「ざっくばらんな関わり合い」は、全教科において行っている。

●体育科における価値ある「ざっくばらんな関わり合い」

①友だちと試技の結果やできばえを伝え合いながら学習する。

【協働的な学び（仲間との関わり合い、高め合い）】

+

②自分の技能段階にあったレベルを選択（自己調整）しながら学習する。

【個別最適な学び（自己内対話）】

●価値ある「ざっくばらんな関わり合い」を生み出すために

- 「児童が必要感をもつ」教師の働きかけ
 - ・学びのつながりを意識した導入（ゴールを見据えたストーリー性のある単元計画）
 - ・ねらいにせまる発問「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」
 - ・効果的な声かけ（レベルの調整を促す、運動のポイントに気付かせる、具体の賞賛）
- 「児童が必要感をもつ」教材・教具の工夫
 - ・友だちと試技の結果やできばえを伝え合いながら学習できる
 - ・自分の技能段階にあったレベルを選択（自己調整）しながら学習できる

●授業づくりの根拠として

以下は、彦成小学校で代々大切にしてきたものである。「彦成小よい体育授業の手びき」と「彦成小体育授業45」の令和5年度版はホームページで公開している。

○彦成体育授業4つの柱

4つの柱を大切に、授業を展開する。また、学級の実態や単元、発達段階を踏まえて手立てを講じる。

- ・活気のある授業（力いっぱい運動する）のために
- ・伸びのある授業（技を高める）のために
- ・学びのある授業（新しいことを発見する）のために
- ・歓声のある授業（友だちと仲良く）のために

○彦成小よい体育授業の手びき

彦成小学校で目指すべき授業内容を示したものである。全体に共通する課題やポイント、学習内容を必ず主運動前に示すことや、毎時間発問すること等、体育授業の基盤となるものがまとめられている。

○彦成小体育授業45

体育授業の45分間の基本的な流れが示されている。また、「授業の空気」「指示の出し方」「指示を出す道具等」「全体での見合い、師範時の隊形」等が掲載されている。

仮説2. 基盤となる心と体づくり

●教科外体育の充実

- ・なりスポ（朝運動）の充実
- ・業間運動の質の向上
- ・児童主体の活動
- ・年間チャレンジの実施
- ・体育的行事を通しての心の成長

●家庭・地域との連携

- ・元気もりもりプロジェクト
- ・体育通信の発行
- ・体力アップカードの作成
- ・放課後彦成クラブの充実

●教員研修～不易を大切に、流行に敏感に～

- ・月例授業の充実
- ・「運動領域ごとの身に付けるべき知識・技能の系統表」の活用
- ・運動に親しむ環境整備
- ・リズム縄跳び「彦成なわとび」と「雨の日体操」の作成

● 研究の進め方

価値ある「ざっくばらんな関わり合い」

- 校内授業研究会や月例授業等を利用して他の教員の授業を積極的に見合う。

令和4年度	5月10日(火)	月例5月	4年生	器械運動：マット運動(開脚前転・側方倒立回転)
	6月2日(水)	月例6月	1年生	器械・器具を使つての運動遊び：マットを使った運動遊び
	6月30日(木)	校内研修	2年生	器械・器具を使つての運動遊び：マットを使った運動遊び
			5年生	器械運動：マット運動
	9月8日(木)	月例9月	3年生	器械運動：跳び箱運動(開脚跳び)
	9月28日(水)	校内研修	5年生	器械運動：鉄棒運動
	10月6日(木)	月例10月	5年生	陸上運動：ハードル走
	11月8日(火)	支援担当訪問	けやき	キャッチソフトバレーボール
			1年生	ゲーム：ボールゲーム(的当て遊び)
			4年生	器械運動：跳び箱運動
	11月22日(火)	校内研修	6年生	ボール運動：ゴール型(バスケットボール)
12月8日(木)	月例12月	2年生	体つくりの運動遊び・器械・器具を使つての運動遊び：鉄棒を使った運動遊び	
2月10日(金)	自主発表会	3年生	器械運動：マット運動	
		6年生	ボール運動：ネット型(ソフトバレーボール)	
令和5年度	5月11日(木)	月例5月	5年生	器械運動：鉄棒運動・陸上運動：走り幅跳び
	6月1日(木)	月例6月	6年生	器械運動：マット運動(倒立前転)
	6月19日(月)	支援担当訪問	1年生	器械・器具を使つての運動遊び：マットを使った運動遊び
			2年生	器械・器具を使つての運動遊び：マットを使った運動遊び
			4年生	走・跳の運動：高跳び
	9月21日(木)	校内研修	3年生	ゲーム：ゴール型ゲーム(セストボール)
	9月28日(木)	月例10月	4年生	器械運動：跳び箱運動(台上前転)
	11月17日(金)	埼玉県 体育課題解決 発表	2年生	器械・器具を使つての運動遊び：跳び箱を使った運動遊び
			5年生	ボール運動：ベースボール型(ティーボール)
			6年生	器械運動：鉄棒運動
	12月7日(木)(予定)	月例12月	3年生	走・跳の運動：小型ハードル走 ※予定
1月25日(木)(予定)	月例1月	5年生	器械運動：跳び箱運動(かかえ込み跳び) ※予定	
2月15日(木)(予定)	月例2月	1年生	ゲーム：ボールゲーム(ボールけり) ※予定	

- 校内授業研究会や月例授業後に研究協議の場を設け、手立てが有効なものであったか振り返るとともに、指導方法の工夫・改善につなげる。

令和4年度：「①教材の工夫」「②ざっくばらんな関わり合い」を視点とし、よかった点や改善点等についての協議を実施。

令和5年度：視点を「価値ある『ざっくばらんな関わり合い』」のみにしぼり、授業観察シートをもとに、有効な手立てや改善点等についての協議を実施。

基盤となる心と体づくり

令和4年度

- 業間運動の実施（「投力向上」と「鉄棒運動」を中心に実施）
- 体育的行事を通しての心の成長（リレー大会、運動会、持久走大会、縄跳び大会、鉄棒運動発表会）
- 元気もりもりプロジェクト（元気もりもりアンケートの実施、朝食レシピ授業、夏休みの朝食づくり）
- ボルダリングの設置
- 月例授業の充実
- 放課後彦成クラブの設立

取組の見直し・改善

令和5年度

令和4年度の実施に加え、以下の取組を実施。

- 年間チャレンジの実施
- 児童主体の活動（各委員会やクラブ活動主催のキャンペーンやパーティーの実施）
- 体育通信の発行
- 体力アップカードの作成
- 運動に親しむ環境整備（フリーボールの設置、体育教具の整理整頓等）
- リズム縄跳び「彦成なわとび」と「雨の日体操」の実施
- 「運動領域ごとの身に付けるべき知識・技能系統表」の活用



実践の様子

●教材研究

運動の特性や児童の実態等をふまえ、単元計画や手立てを考える。どのようにすれば「価値ある『ざっくばらんな関わり合い』」※が生まれるのかを授業づくりの柱として教材研究を行う。

①「児童が必要感をもつ」教師の働きかけを考える

(例) 学びのつながりを意識させるには？
ねらいに迫るための発問は？
効果的な声掛けとは？



②「児童が必要感をもつ」教材・教具の工夫を考える

(例) 児童の心をくすぐる教材とは？
適切な場とは？
関わり合いながら学びを深めるためには？



子供達の「やってみよう!」「できるようになりたい!」を生み出し

「できた!」「楽しい!」「運動大好き!」へつなげる!!

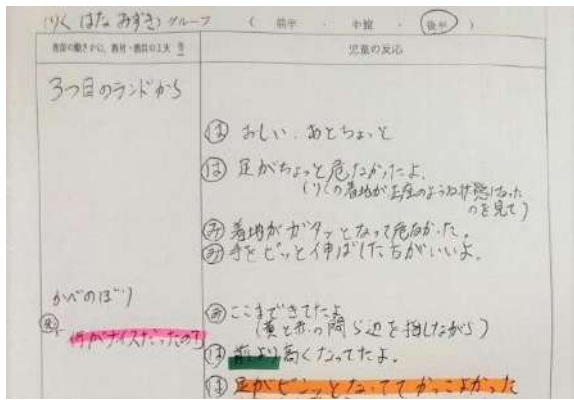
※「価値ある『ざっくばらんな関わり合い』」とは、協働的な学びと個別最適な学びを児童が必要に応じて選択し、知識・技能を向上させていくことのできる学習。特に協働的な学び(友達と試技の結果やできばえを伝え合いながら学習する)に重点をおいて指導している。

価値ある「ざっくばらんな関わり合い」

●研究協議会

月例授業(若手教員研修)及び校内授業研究会後に研究協議会を設ける。

「授業参観シート」に、児童の反応等(関わり合い・動き等)を記録しながら授業を参観し、協議で活用する。児童の姿をもとに、どのような発問や声掛けが有効であったか、どのような教具や場が有効であったか、よりよい指導方法等について協議する。



●授業参観

学級通信作成後、参観してほしい授業に印をつけ、全学級のものを職員室内に掲示している(週イチ)。それをもとに、可能な限り互いの授業を参観し合い、手立ての適正性等について検討・見直しをする材料とする。

	算数	算数	算数	家庭科	国語
3	分数	分数	分数	島村先生	よりよい学校生活のために
4	音楽	外国語	外国語	家庭科	算数
	田中先生	シユミット先生	シユミット先生	島村先生	分数
5	国語	家庭科		書写	音楽
	よりよい学校生活のために	島村先生		和泉先生	田中先生
6		体育		体育	体育
		ティーボール		ティーボール	ティーボール



基盤となる心と体づくり

●体育的行事を通しての心の成長

例1. 校内リレー大会

5月下旬に全員参加の校内リレー大会を実施している。新しい学級に慣れてきた時期に行うことで、学級への所属感を高めるとともに、学級や学年の団結心を高めることをねらいとしている。



自分もクラスの一員!!
みんなのために!!みんなで頑張る!!



●体育的行事を通しての心の成長②

例2. 秋季運動会

児童会を中心に、児童がつくる運動会を行っている。入場前の円陣、各学級オリジナルの入場行進、児童会が考えた全校ダンス等を取り入れることで、学級への所属感や児童の主体性を高めることをねらいとしている。



自分たちでつくる運動会!!
その分、努力の量も喜びの大きさも増す!!



教科外体育の充実

●体育的行事を通しての心の成長④

例4. 三郷市内小学校水泳検定 陸上記録会

市内行事である「水泳記録会」「陸上記録会」に向けて努力することを通して、困難に立ち向かう態度や粘り強さ等を養うことをねらいとしている。



勝ちにこだわる!!
そのための努力!!絶対にあきらめない!!



●体育的行事を通しての心の成長③

例3. 鉄棒運動発表会

上級生が下級生に演技を披露することで、意欲をもって運動に取り組むことができるようにすることをねらいとしている。また、発表には全員が参加するため、全員の活躍の場となっている。



よりよい演技を見せられるように頑張る!!
上級生にあこがれて頑張る!!



基盤となる心と体づくり

●なりスポ（業前運動）の実施

毎週火曜日～金曜日の8:15～8:30に全校運動を行う。運動を生活化することで運動の基礎を培うことをねらいとする。

時期に合わせて、集団行動、短距離走、持久走、鉄棒・固定施設、投力向上、短縄、長縄、綱引き等の運動を行う。



みんなで楽しむ!!
運動するって気持ちいい!!



●業間運動の質の向上

毎日の10:30～10:40に全校運動を行う。運動を生活化することで運動の基礎を培うとともに、運動に親しむ態度を養うことをねらいとする。

時期に合わせて、短距離走（8秒間走）、持久走、リズム縄跳びを行う。



みんな本気!!
友達にも自分自身にも負けない!!



教科外体育の充実

●年間チャレンジの実施

各学年で確実に身につけさせたい重点技を決め、運動の素地となる力を高めることをねらいとして、朝運動や業間運動の時間に取り組む。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
体づくり運動系	姿勢安定足蹴げ	姿勢安定後ろ蹴げ	かけ足蹴げ	あや蹴げ 文足蹴げ	二重蹴げ	はやり蹴げ
マッパ運動系	ブリッジ(両手両足) アンテナ かえるの足打ち かえる確立(～5秒)	ブリッジ(両手両足) アンテナ(2秒先ピン) かえるの足打ち (腰高い) かえる確立(～10秒)	補助立ちブリッジ	立ちブリッジ	両手補助確立	片手補助確立
器械運動系	そりくぐり (鉄棒を最後まで見る) ツバメ(肘ピン)並ビ ソウメ先ピン こまめり お祭り	足踏き回り プランコ (膝下揃い)出(下り) こまめり手つき下り	補助足上がり 逆上がり 両脚掛け振動下り	補助かけ振り上がり (バネ子) 両足下り	補助かけ振り上がり (1回の振りで行う) 片足踏み踏み下り	両方足併足蹴



●児童主体の活動

児童が進んで運動したり、体を動かすことを楽しんだり、運動の素地を養ったりすることをねらいとする。

活動例① 運動委員会

運動委員会の児童が、低学年児童を対象とした体力向上キャンペーンを実施し、ボール投げやブリッジ、ボルダリング等を教えることで、運動の素地となる力を高める。

活動例② ダンスバトンクラブ

ダンスバトンクラブの児童が「ジャンボリパーティー」を企画し、全校で音楽に合わせて体を動かすことを楽しむ。



基盤となる心と体づくり

●元気もりもりプロジェクトの推進

児童が自分の体や健康に関心をもつことをねらいとし、家庭の協力を得ながら朝食摂取率や睡眠時間、虫歯の治療率等を向上させる。

活動例① 朝食レシピ授業

市の健康推進課との連携による「朝食レシピ授業」を行った。保護者にも授業に参加していただき、授業後には一週間の実態調査を実施した。

活動例② 夏休みに朝食づくり

家庭科で学習したことを活かして夏休みに朝食づくりに挑戦し、タブレットでその内容を報告させた。

活動例② 夏休みに朝食づくり

家庭科で学習したことを活かして夏休みに朝食づくりに挑戦し、タブレットでその内容を報告させた。

タブレット画面には「朝食レシピ授業」のレシピと、「朝食づくりのポイント」が記載されている。ポイントには「栄養バランスに気を付けて作ることです。」「朝食は毎朝作ることで、元気な朝を迎えることができます。」「朝食は、たんぱく質、ビタミンがしっかりと摂れるメニューで美味しく食べられました。学習意欲が高まりました。」とある。

活動例③ 健康委員会の発表

健康委員会の児童が「元気もりもりアンケート」の結果をスライドにまとめ、児童集会で現状と健康的な生活について発表した。

●放課後彦成クラブの充実

放課後の時間に、保護者や地域の方々との協力、学校運営協議会の方々の知恵を拝借し、3年生以上を対象に放課後彦成クラブを開いている。現在は8つのクラブを日替わりで毎日実施しており、放課後も運動に親しむ児童が多くいる。

- (月) バレーボール・将棋
- (火) バドミントン
- (水) バスケットボール・パソコン
- (木) 野球・学習
- (金) ハンドボール・工作



もっとやってみたい!!
もっとできるようになりたい!!

●体育通信の発行

各種アンケートの結果や、体育的行事、年間チャレンジの取組の様子等を家庭に周知することをねらいとする。



令和5年度の体育通信第1号
(校内リレー大会と、なりスポについて)

家庭・地域との連携

●体力アップカードの作成

児童の記録や伸びを記入するカードを作成し、保護者に周知するとともに、児童のさらなる成長を促進することをねらいとする。

すいえいうんどうけい 水泳運動系

水に顔をつける	
水中に潜る	
クラゲ浮き・大の字浮き	
バブリング	
ポビング	
けのび	

体力アップカード（一部抜粋）
できたものに担任がチェックをする。

基盤となる心と体づくり

●月例授業の充実

毎月、若手教員（2～5年次）の教員の授業を参観し、校内研修の時間に研究協議を行う。授業のよかった点を中心に協議するとともに、若手教員が普段の指導の中で抱いている疑問や悩みを話し合う場としても活用する。

研究協議後には中堅教諭が指導者となって全体研修を行うことで、全教職員の授業改善及び指導力向上を目指す。



●運動に親しむ環境整備

いつでも運動に親しむことができる環境を整備し、体を動かすことを楽しんだり、遊びの中で運動の基礎を身に付けたり、目標をもって運動したりできるようにすることをねらいとする。



体を動かすって楽しい!!
運動するとすっきりする!!
そんな子供たちを育てる環境づくり

教職員研修 ～不易を大切に、流行に敏感に～

●リズム縄跳び「彦成なわとび」と「雨の日体操」の作成

①リズム縄跳び「彦成なわとび」

休み時間も楽しく運動できるようにすることをねらいとしている。運動委員会の児童が中心となって作成し、業間休みに全校で取り組んでいる。

②雨の日体操（作成中）

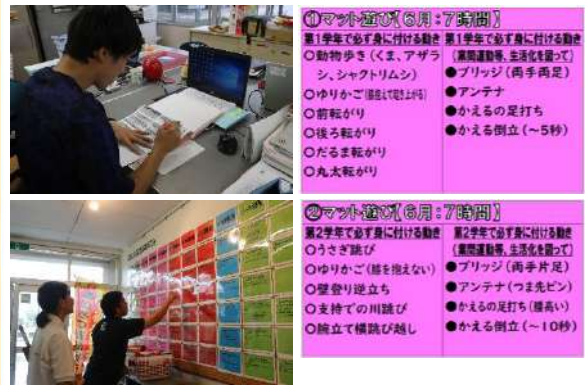
体力向上部が中心となって作成する。座位で行うものや立位で行うもの等、様々な動きを取り入れ、雨の日も室内で体を動かして運動に親しんだり、心の健康を維持したりすることができるようにする。



●「運動領域ごとの身に付けるべき

知識・技能系統表」の活用

学年間のつながりを意識した「運動領域ごとの身に付けるべき知識・技能系統表」を作成し、目標やねらいを明確にして教材研究をしたり、単元計画や手立てを考えたりできるようにする。また、学習後に学年の実態を記入しておくことで、年度をまたいで実態を把握したり引き継いだりできるようにする。



①マッパ道①(6月:7時間)	②マッパ道②(6月:7時間)
①学年で必ず身に付ける動き ○動物歩き(くま、アザラシ、シヤクトリムシ) ○ゆりかご(膝を揃えて) ○前転がり ○後ろ転がり ○だるま転がり ○丸太転がり	②学年で必ず身に付ける動き (基礎運動等、生活化を促して) ●ブリッジ(両手両足) ●アンテナ ●かえるの足打ち ●かえる倒立(～5秒)
①学年で必ず身に付ける動き ○うさぎ跳び ○ゆりかご(膝を揃えない) ○壁登り逆立ち ○支持での川跳び ○跪立で横跳び越し	②学年で必ず身に付ける動き (基礎運動等、生活化を促して) ●ブリッジ(両手片足) ●アンテナ(つま先ピン) ●かえるの足打ち(膝高い) ●かえる倒立(～10秒)

彦成小 運動領域ごとの身に付けるべき知識・技能系統表 全体図

領域 学年	体づくり運動系	器械運動系			陸上運動系	
		マット運動系	鉄棒運動系	跳び箱運動系	走の運動系	跳の運動系
一年生	<ul style="list-style-type: none"> ●体ほぐし ●多様な動き・バランス ●多様な動き・移動(かけ足) ●多様な動き・用具を操作(短なわ) 大会に向けて ●多様な動き・用具を操作(長なわ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○動物歩き(くま、アザラン、シャクリムシ) ○ゆりかご(膝抱えて起き上がる) ○前転がり ○後ろ転がり ○だるま転がり ○丸太転がり ■民間運動等、生活化を図って ●ブリッジ(両手両足) ●アンテナ ●かえるの足打ち ●かえる倒立(～5秒) 	<ul style="list-style-type: none"> ○親指ロック ○ふとん干し ○地球回り ○ダンゴ虫 ○ぶたの丸焼き ■民間運動等、生活化を図って ●そりくぐり(鉄棒を最後まで見る) ●ツバメ(肘ピン・膝ピン・つま先ピン) ●こうもり ●前回り 	<ul style="list-style-type: none"> ○踏み越し跳び ○支持で跳び乗り・跳び下り 	<ul style="list-style-type: none"> ●折り返しリレー ○リングバトンを片手で受け渡して走る。 ●かけっこ ○最後まで力を抜かずに走る。 ※運動会 徒競走 	<ul style="list-style-type: none"> ●幅跳び遊び ○両足でしっかり地面を蹴って前方に跳ぶ。 ●ゴム跳び遊び ○助走を付けて片足でしっかり地面を蹴って上方に跳ぶ。 ●ケンパー遊び ○片足や両足で、並べられたケンステップ等を連続して前方に跳ぶ。
二年生	<ul style="list-style-type: none"> ●体ほぐし ●多様な動き・力試し ●多様な動き・バランス ●多様な動き・移動(かけ足) ●多様な動き・用具を操作(短なわ) ●多様な動き・用具を操作(長なわ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○うさぎ跳び ○ゆりかご(膝を抱えない) ○壁登り逆立ち ○支持での川跳び ○腕立て横跳び越し ■民間運動等、生活化を図って ●ブリッジ(両手片足) ●アンテナ(つま先ピン) ●かえるの足打ち(腰高い) ●かえる倒立(～10秒) 	<ul style="list-style-type: none"> ○跳び上がり ○ふとん干し振り ○だるま振り ○こうもり振り ○振り跳び下り ■民間運動等、生活化を図って ●足抜き回り ●プランコ ●こうもり手つき降り 	<ul style="list-style-type: none"> ○支持でまたぎ乗り・またぎ下り ○馬跳び 	<ul style="list-style-type: none"> ●ハードルリレー ○低い障害物を走り越える。 ●かけっこ ○直線コースを真っ直ぐに走る。 ※運動会 徒競走 	<ul style="list-style-type: none"> ●幅跳び遊び ○助走を付けて片足で前方に跳ぶ。 ●ゴム跳び遊び ○片足や両足で連続して上方に跳ぶ。
三年生	<ul style="list-style-type: none"> ●体ほぐし ●多様な動き・移動(かけ足) ●多様な動き・用具を操作(短なわ) ●多様な動き・用具を操作(長なわ) ●多様な動き・力強さ ●多様な動き・バランス ●多様な動き・組み合わせる運動 	<ul style="list-style-type: none"> ○前転 ○大きな前転(※)(膝伸ばす) ○後転 ○開脚後転 ■民間運動等、生活化を図って ●補助立ちブリッジ(※) 	<ul style="list-style-type: none"> ○前回り下り ○かかえ込み前回り ■民間運動等、生活化を図って ●補助逆上がり ●逆上がり(※) ●両膝掛け振動下り(※) 	<ul style="list-style-type: none"> ○開脚跳び ・縦4段まで ・着地距離を伸ばす(第二空間を大きく) 	<ul style="list-style-type: none"> ●リレー ○走りながらバトンを渡したり、もらったりする。 ●かけっこ ○いろいろな走り出しの姿勢から、素早く走り始める。 ※運動会 徒競走 ●小型ハードル走 ○いろいろなリズムや一定のリズムで走り越す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●幅跳び ○05～7歩程度の助走から踏み切り足を決めて前方に強く踏み切り、遠くへ跳ぶ。 ○膝を柔らかく曲げて、両足で着地する。
四年生	<ul style="list-style-type: none"> ●体ほぐし ●多様な動き・移動(かけ足) ●多様な動き・用具を操作(短なわ) ●多様な動き・用具を操作(長なわ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな前転(※)(腰角を大きく「くーるん」) ○壁倒立 ○側方倒立回転 ■民間運動等、生活化を図って ●立ちブリッジ(※) 	<ul style="list-style-type: none"> ○後方片膝掛け回転 ■民間運動等、生活化を図って ●膝掛け振り上がり(バナナ) ●転向前下り 	<ul style="list-style-type: none"> ○台上前転 ・縦4段まで ・膝を伸ばす ・腰角を大きくする 	<ul style="list-style-type: none"> ●リレー ○走りながら、タイミングよくバトンの受け渡しをする。 ○コーナーの内側に体を軽く傾けて走る。 ●かけっこ ○真っ直ぐ前を見て、腕を前後に大きく振って走る。 ※運動会 徒競走 	<ul style="list-style-type: none"> ●高跳び ○03～5歩程度の短い助走から踏み切り足を決めて上方に強く踏み切り、高く跳ぶ。 ○膝を柔らかく曲げて、足から着地する。
五年生	<ul style="list-style-type: none"> ●体ほぐし ●体の動きを高める・持続(持久走) ●体の動きを高める・力強さ ●体の動きを高める・巧み(長なわ、短なわ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○開脚前転 ○伸膝後転 ■民間運動等、生活化を図って ●両手補助倒立(※) 	<ul style="list-style-type: none"> ○後方支持回転 ■民間運動等、生活化を図って ●膝掛け振り上がり(1回の振りで行う) ●片足踏み越し下り 	<ul style="list-style-type: none"> ○かかえ込み跳び ・縦6段まで ・着地距離を伸ばす(第二空間を大きく) 	<ul style="list-style-type: none"> ●リレー ○テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受け渡しをする。 ●短距離走 ○スタート直後、体を軽く前傾させて走る。 ※運動会 徒競走 ●ハードル走 ○第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越える。 ○バランスをとって真っ直ぐ走り切る。 ○インターバルを3歩または5歩で走る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●走り幅跳び ○07～9歩程度のリズムカルな助走をする。 ○踏み切りゾーンで力強く踏み切る。 ○かがみ跳びから両足で着地する。
六年生	<ul style="list-style-type: none"> ●体ほぐし ●体の動きを高める・持続(持久走) ●体の動きを高める・柔らかさ ●体の動きを高める・巧み(長なわ、短なわ) ●長縄・短縄 	<ul style="list-style-type: none"> ○補助倒立前転 ○組み合わせ技(スムーズ、高さの差) ■民間運動等、生活化を図って ●片手補助倒立(※) 	<ul style="list-style-type: none"> ○組み合わせ技(ていねい・スムーズ) ■民間運動等、生活化を図って ●前方支持回転 	<ul style="list-style-type: none"> ○伸膝台上前転 ・縦6段まで ・腰角を大きくする(くーるん) 	<ul style="list-style-type: none"> ●リレー ○減速せず、手を肩の位置まで高く上げたバトンパス。 ●短距離走 ○スタンディングスタートから素早く走り始める。 ○体を軽く前傾させて、全力で走る。 ※運動会 徒競走 	<ul style="list-style-type: none"> ●走り高跳び ○05～7歩程度のリズムカルな助走をする。 ○上体を起こして力強く踏み切る。 ○はさみ跳びで、足から着地する。

(※)は、例示されていない、または、例示されている発展技や上学年の例示に示されている、本校において大切にしている運動例

陸上運動系	水泳運動系	ボール運動系			表現運動系
		ゴール型系	ネット型系	ベースボール型系	
投の運動系	<ul style="list-style-type: none"> ○水中で目をあけてもぐる遊び(じゃんけん、にらめっこ、石拾い) ○くらげ浮き、大の字浮き 	<ul style="list-style-type: none"> ●的当てゲーム <ul style="list-style-type: none"> ○ねらったところに緩やかにボールを投げる、的に当てる。 ○ボールを操作できる位置に動く。 ●しっぽ取り鬼 <ul style="list-style-type: none"> ○鬼のいない場所に移動したり、駆け込んだりする。 ●ボールけり <ul style="list-style-type: none"> ○ねらったところに緩やかにボールを蹴る、的に当てる。 ○ボールを操作できる位置に動く。 			<ul style="list-style-type: none"> ●リズム遊び <ul style="list-style-type: none"> ○へそでリズムに乗り、スキップなど弾お動きを中心に動きを繰り返して踊る。 ※運動会 表現:低学年合同
<ul style="list-style-type: none"> ○横向きに立ち、肘を高く上げて投げる。 ○体全体を使って遠くへ投げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伏し浮きなどの浮く遊び(簡単なけのび) ○バブリングやポピング 	<ul style="list-style-type: none"> ●宝取り鬼 <ul style="list-style-type: none"> ○タグやフラッグを取られないように、空いている場所を見つけて、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりする。 ○少人数で連携して鬼をかわしたり、走り抜けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ドッジボールゲーム <ul style="list-style-type: none"> ○相手コートにボールを投げ入れたり、捕ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●キックベースゲーム <ul style="list-style-type: none"> ○攻めの時に、おもいきりボールを蹴る。 ○守りの時に、ボールが跳んだり、転がったりしてくるコースに入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●リズム遊び <ul style="list-style-type: none"> ○友達と手をつなぎ、スキップしながら回ったり、ねじったり、手をたたき合ったりして踊る。 ※運動会 表現:低学年合同
	<ul style="list-style-type: none"> ○けのび ○面かぶりクロール(13m) ○呼吸を調整しながらいろいろなもぐり方、浮き沈み方 	<ul style="list-style-type: none"> ●セストボール <ul style="list-style-type: none"> ○ボールを持ったときにゴールに体を向ける。 ○味方にパスを出したり、シュートをしたりする。 ○守るものがない空間に移動しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ●ティーボール <ul style="list-style-type: none"> ○手や用具でボールをフェアグラウンド内に打つ。 ○投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●リズムダンス <ul style="list-style-type: none"> ○ロックやサンバなどのリズムの特徴を捉え、全身で弾んだり、動きに変化を付けたりして踊る。 ※運動会 表現:中学年合同
<ul style="list-style-type: none"> ○腕を振り切り、スナップを効かせて投げる。 ○体全体を使って力強く遠くへ投げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単なクロール(25m) ○かえる足泳ぎ(13m) 	<ul style="list-style-type: none"> ●タグラグビー <ul style="list-style-type: none"> ○ボールを持ったときにゴールエリアに体を向けて前に進む。 ○味方にボールを手渡したり、ゴールエリアにボールを持ち込んだりする。 ●ラインサッカー <ul style="list-style-type: none"> ○足で味方にパスを出したり、シュートをしたりする。 ○守るものがない空間に移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●プレルボール <ul style="list-style-type: none"> ○片手または両手ではじいて相手コートに返球する。 ○ボールを操作しやすい位置に移動して、ボールの方向に体を向ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ●リズムダンス <ul style="list-style-type: none"> ○調子を合わせたり、かけ合いをしたりして、友達とかかわって踊る。 ※運動会 表現:中学年合同
	<ul style="list-style-type: none"> ○クロール(25m) ○平泳ぎ(15m) ○安全確保につながる運動・10秒~20秒程度を目安にした背浮き 	<ul style="list-style-type: none"> ●サッカー <ul style="list-style-type: none"> ○フリーの味方にパスを出す。 ○得点しやすい場所に移動し、パスを受けて足でシュートをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ●ティーボール <ul style="list-style-type: none"> ○バットでフェアグラウンド内に打つ。 ○打球方向に移動し、捕球をする。 ○守備の隊形をとって得点を与えないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●フォークダンス(日本の民謡を含む) ○日本の民謡や外国の踊りを捉え、基本的な動きを身に付けて踊る。 ※運動会 表現:高学年合同
<ul style="list-style-type: none"> ○体重移動を行い、腕をおちのようにしならせて投げる。 ○ステップを付けて体全体を使って思い切り遠くへ投げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クロール(ゆったりとしたクロール25m) ○平泳ぎ(25m) ○安全確保につながる運動・3~5回程度を目安にした浮き沈み 	<ul style="list-style-type: none"> ●バスケットボール <ul style="list-style-type: none"> ○ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動する。 ○得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ソフトバレーボール <ul style="list-style-type: none"> ○相手コートにボールを打ち返す。 ○ボールの方向に体を向けて、素早く移動する。 ○味方が受けやすいようにボールをつなぐ。 		<ul style="list-style-type: none"> ●フォークダンス(日本の民謡を含む) ○日本の民謡や外国の踊りを捉え、簡単な隊形、ステップ、組み方で踊る。 ※運動会 表現:高学年合同 ※林間修学旅行 キャンプファイヤー

● 研究の結果

新体カテスト

●各年度の調査結果

令和3年度調査の結果

A+B+C : 92.5%
A+B : 64.9%

数値目標 I 新体カテスト

令和5年度調査にて(6・7月)
A+B+C : 95.0%
A+B : 86.0%
5項目以上第一目標達成 : 60.0%

令和4年度調査の結果

A+B+C : 92.4%
(前年度比▼0.1 目標比▼2.6)

A+B : 70.1%
(前年度比+5.2 目標比▼15.9)

5項目以上第一目標達成 : 46.3%
(目標比▼13.7)

令和5年度調査の結果

A+B+C : 94.8%
(前年度比+2.4 目標比▼0.2)

A+B : 75.9%
(前年度比+5.8 目標比▼10.1)

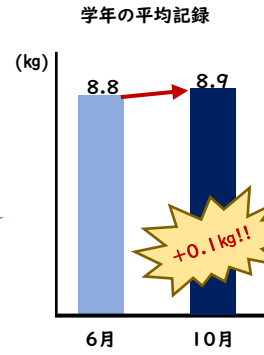
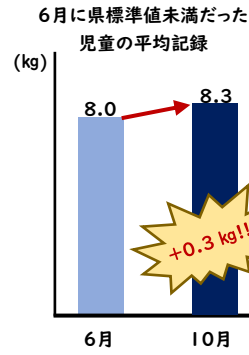
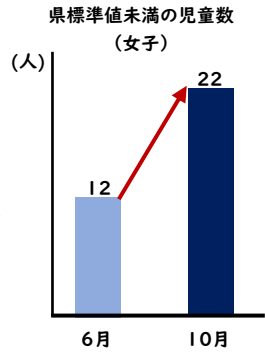
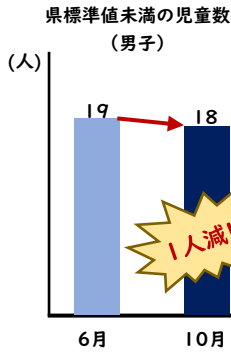
5項目以上第一目標達成 : 65.9%
(前年度比+19.6 目標比+5.9)

●各学年の実態調査の結果(令和5年度)

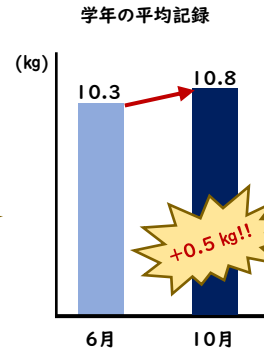
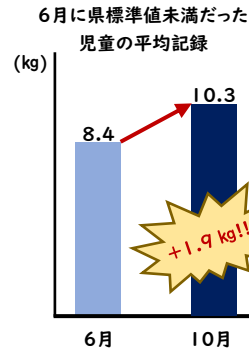
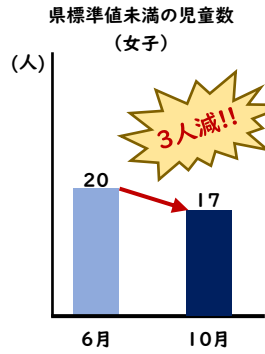
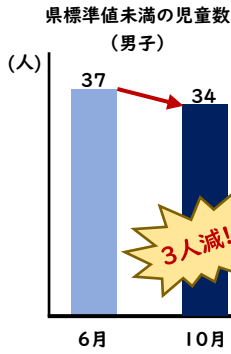
下記の数値を目標として、6月(新体カテスト)と10月に計測をした。6月の目標は「県体力標準値」。10月の目標は「現学年の体力標準値+(次学年の県体力標準値-現学年の県体力標準値)÷3」で算出したもの(÷3は、4ヶ月分の伸びを出すため)。

		握力		50m走		ボール投げ	
		6月	10月	6月	10月	6月	10月
1年生	男子	9.4	9.94	11.42	11.21	8.33	9.34
	女子	8.8	9.4	11.75	11.48	5.90	6.51
2年生	男子	11.04	11.6	10.61	10.43	11.36	12.5
	女子	8.88	11.0	10.92	10.74	7.75	8.41
3年生	男子	12.82	9.93	10.07	9.93	14.82	15.9
	女子	12.21	12.8	10.36	10.21	9.74	10.4
4年生	男子	14.59	15.2	9.64	9.52	18.32	19.4
	女子	14.00	14.8	9.9	9.76	11.80	12.5
5年生	男子	16.66	17.5	9.26	9.13	21.65	22.7
	女子	16.46	17.4	9.48	9.35	14.01	14.6
6年生	男子	19.46	20.9	8.85	8.74	25.05	26.1
	女子	19.42	20.3	9.08	9.03	16.03	16.7

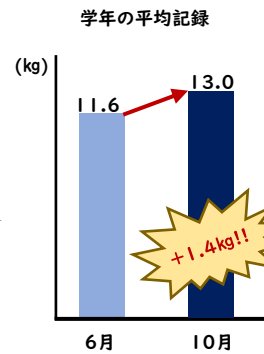
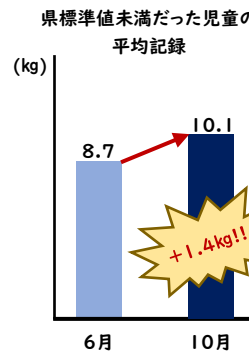
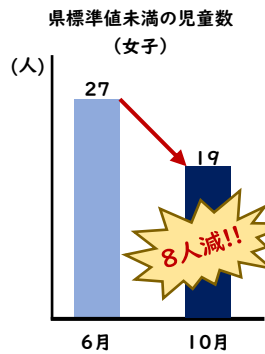
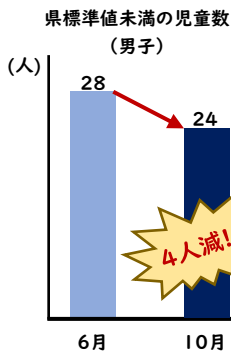
1年生 握力



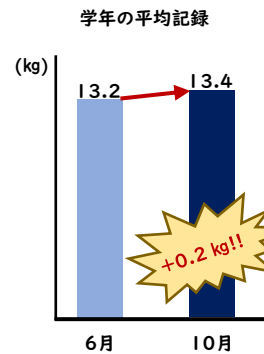
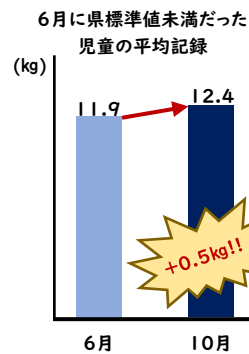
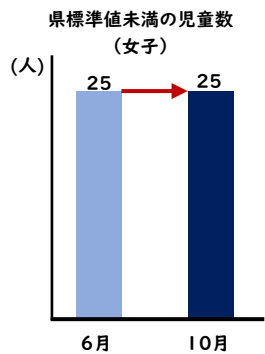
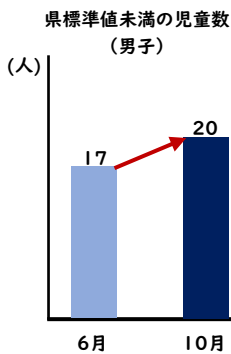
2年生 握力



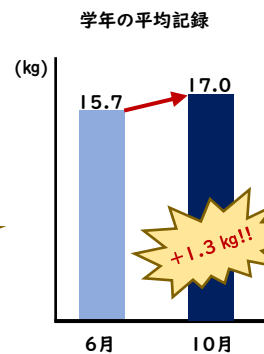
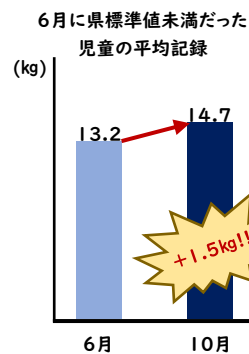
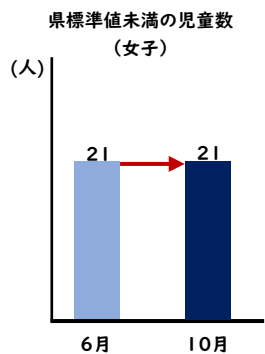
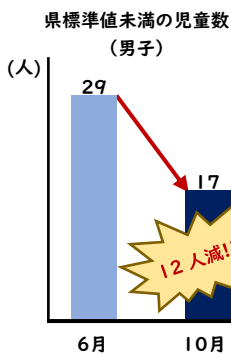
3年生 握力



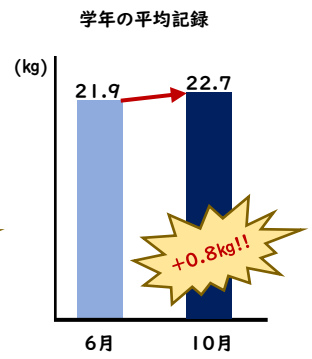
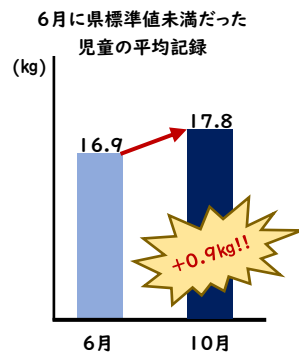
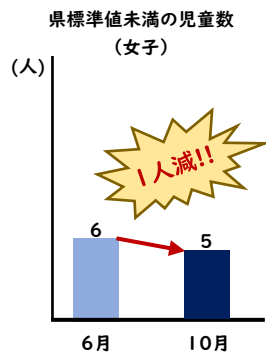
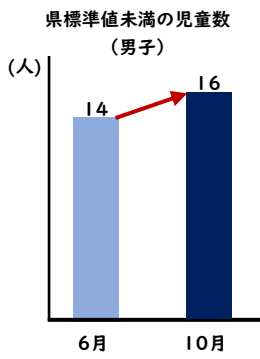
4年生 握力



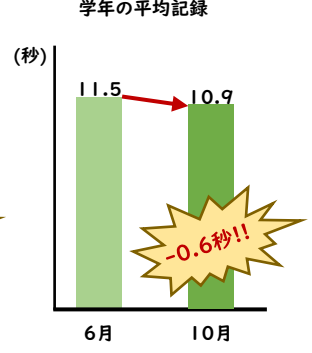
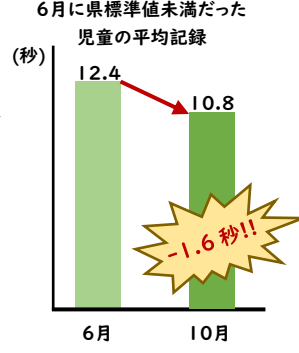
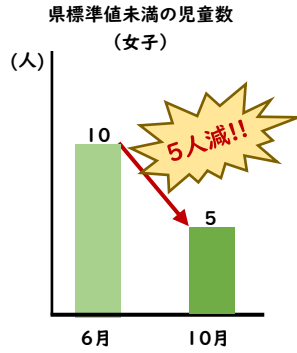
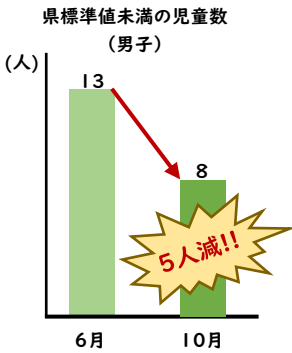
5年生 握力



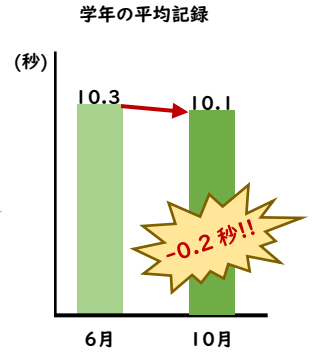
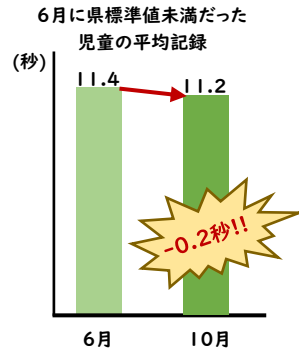
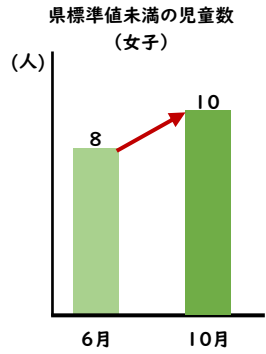
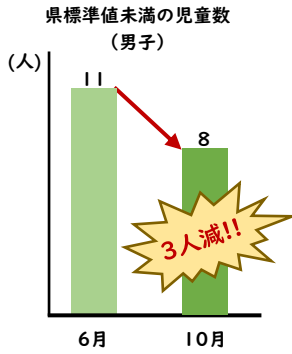
6年生
握力



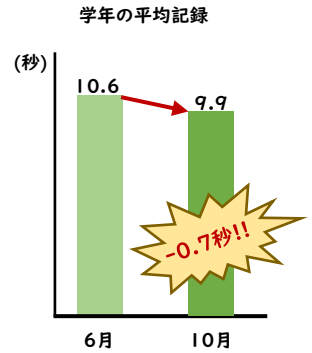
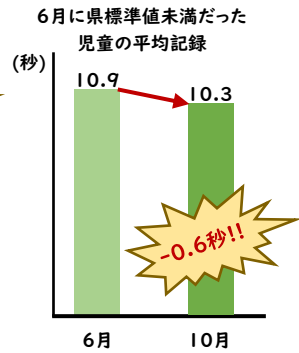
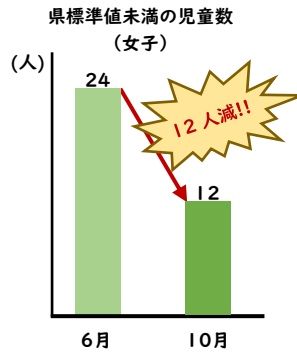
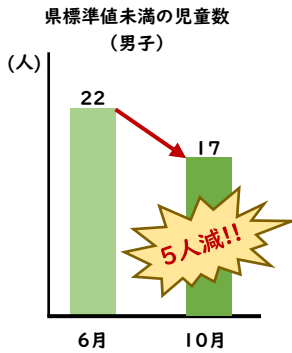
1年生
50m走



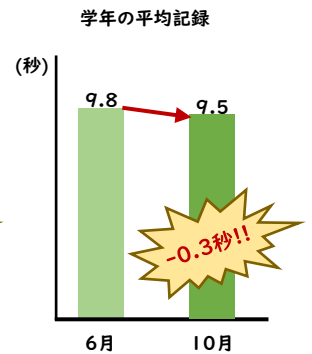
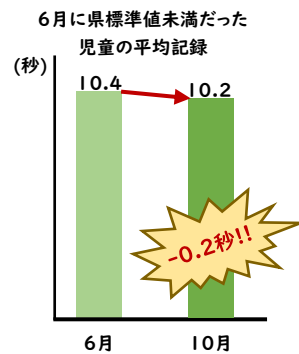
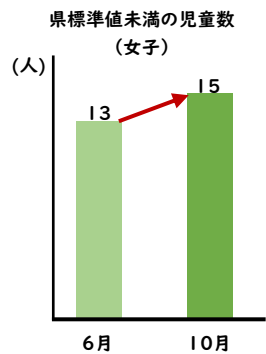
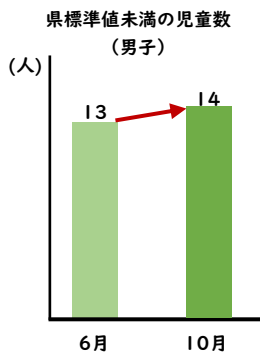
2年生
50m走



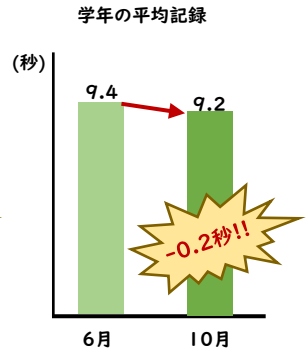
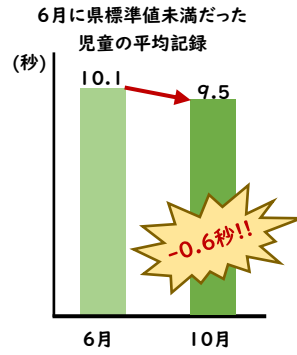
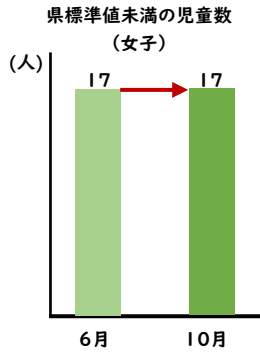
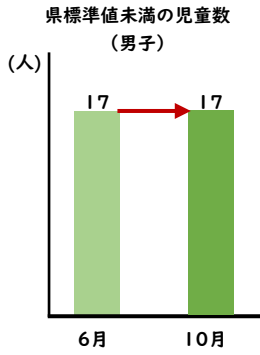
3年生
50m走



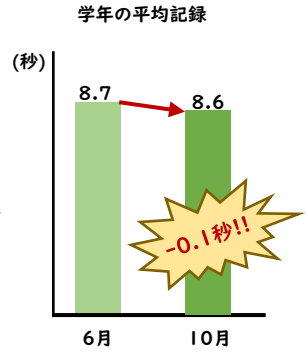
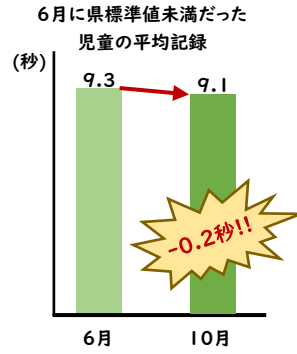
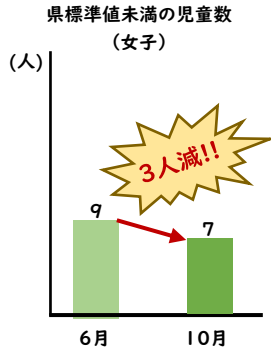
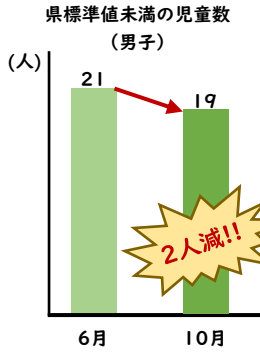
4年生
50m走



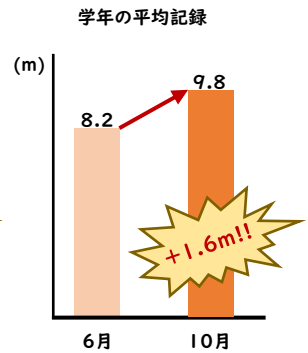
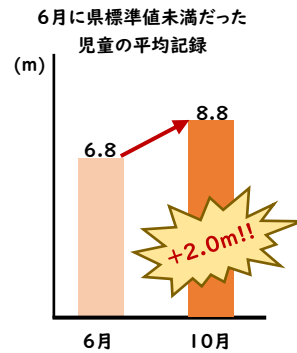
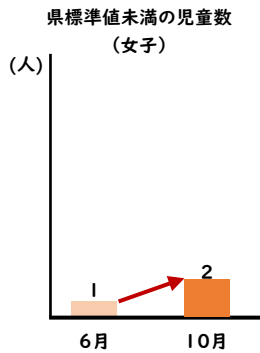
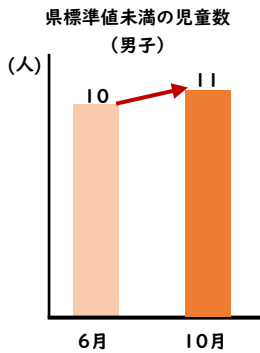
5年生
50m走



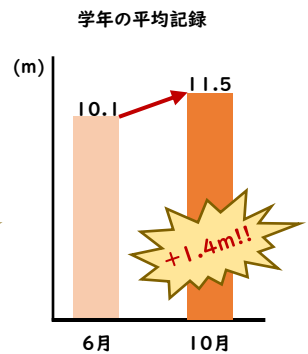
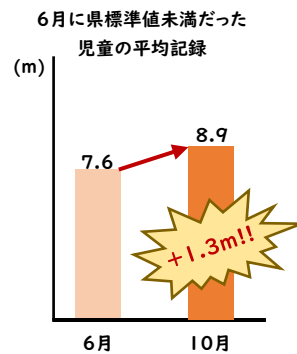
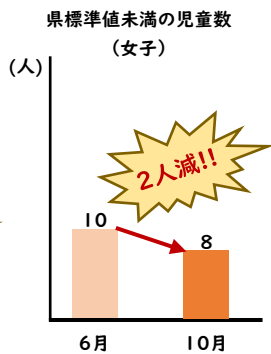
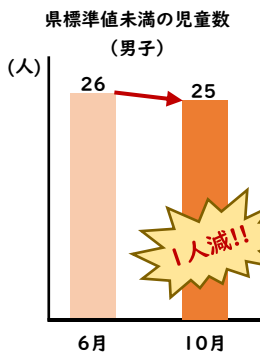
6年生
50m走



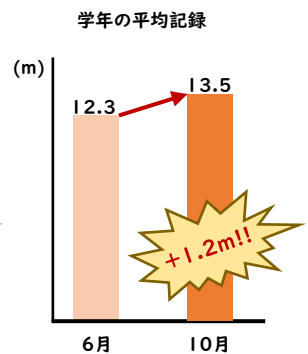
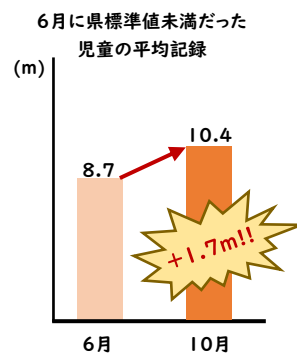
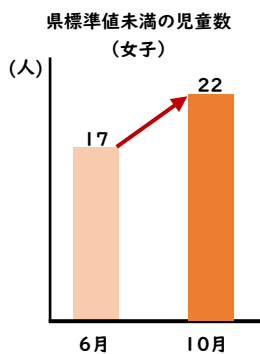
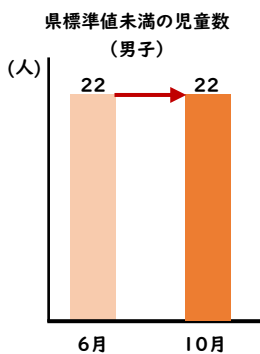
1年生
ボール投げ



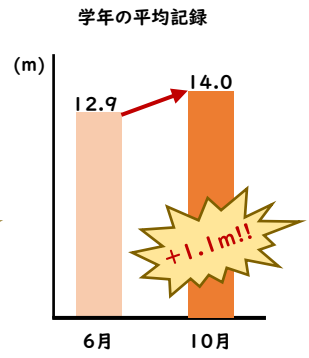
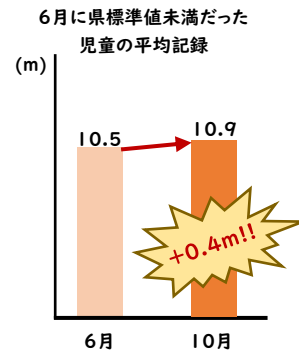
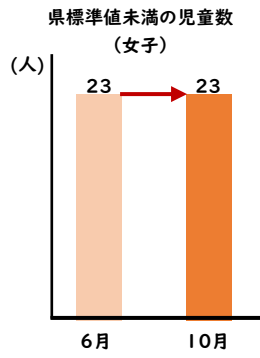
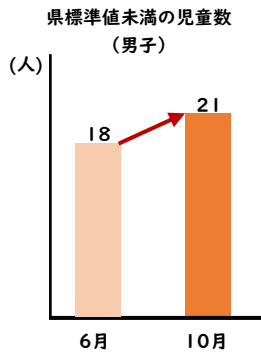
2年生
ボール投げ



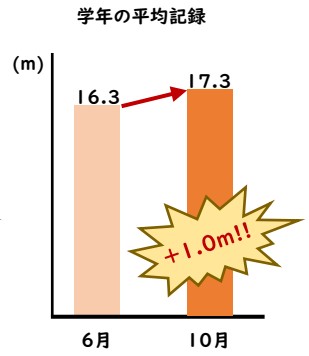
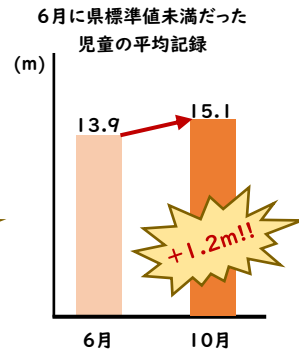
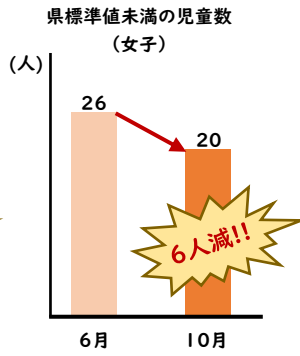
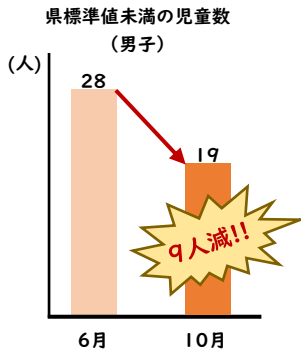
3年生
ボール投げ



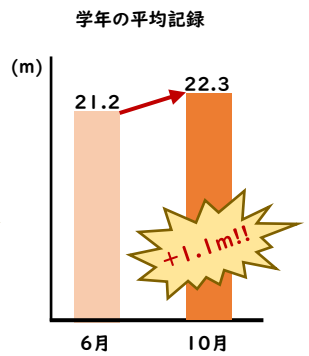
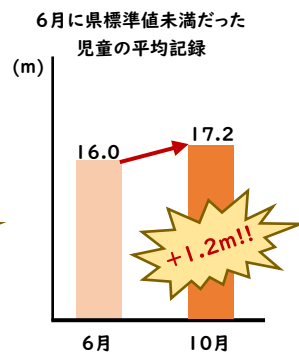
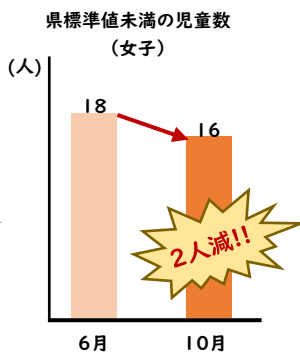
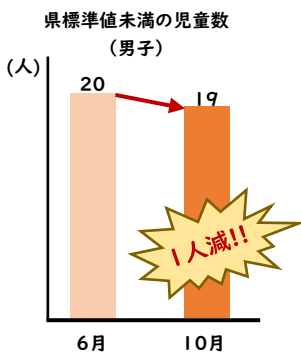
4年生
ボール投げ



5年生
ボール投げ



6年生
ボール投げ



●実態調査の結果と考察

・「6月に県標準値未満だった児童数」と「10月の目標値未満だった児童数」を比較したグラフを見ると、

人数が減ったもの（伸びが見られたもの）・・・ 20 / 36 (55%)

人数が変わらなかったもの（変化がなかったもの）・・・ 6 / 36 (16%)

人数が増えたもの（伸びが足りなかったもの）・・・ 10 / 36 (10%)

以上のことから、全体的に成長の度合いが大きかったといえる。

・2・3・5年生（3学級）に比べ、1・4・6年生（2学級）の伸びが小さかった。2学級の学年には担任外の教員も指導に入る等、フォローしながら力を伸ばしていく。

運動好き

●各年度の調査結果

令和3年度調査の結果

運動と外遊び好き：90.8%
体育好き：64.9%

数値目標2 運動好き

令和5年度調査にて(10月)
運動と外遊び好き：100%
体育好き：100%

令和4年度調査の結果

運動と外遊び好き：94.0%
(前年度比+3.2 目標比▼6.0)

体育好き：96.0%
(前年度比+2.0 目標比▼4.0)

令和5年度調査の結果(10月)

運動と外遊び好き：92.9%
(前年度比▼1.1 目標比▼7.1)

体育好き：95.5%
(前年度比▼0.5 目標比▼4.5)

令和5年度調査では、それぞれの回答の理由について追加調査をした。主な回答は以下の通りである。

運動	好き	<ul style="list-style-type: none"> ・運動(体を動かすこと)が好きだから。 ・運動(体を動かすこと)が楽しいから。 ・友達と一緒に運動すると楽しいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走ることが大好きだから。 ・できることが増えるから。 ・健康になるから。
	きらい	<ul style="list-style-type: none"> ・運動(体を動かすこと)が苦手だから。 ・運動(体を動かすこと)がきらいだから。 ・運動(体を動かすこと)が面倒だから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疲れるから。
体育の授業	好き	<ul style="list-style-type: none"> ・運動(体を動かすこと)が好きだから。 ・友達と一緒に運動すると楽しいから。 ・体を動かすと(汗を流すと)すっきりするから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できると嬉しいから。 ・やりがいがあるから。 ・できることが増えたから。
	きらい	<ul style="list-style-type: none"> ・運動(体を動かすこと)が苦手だから。 ・運動(体を動かすこと)がきらいだから。 ・運動(体を動かすこと)が面倒だから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまらないから。 ・疲れるから。

朝食摂取率

●各年度の調査結果

令和3年度調査の結果：84.9%
(朝食を毎日食べる児童の割合)

数値目標3 朝食摂取率

令和5年度調査にて(10月)：93.0%以上

令和4年度調査の結果：85.7%
(前年度比+0.8 目標比▼14.3)

令和5年度調査の結果(10月)：78.5%
(前年度比▼7.2 目標比▼14.5)

● 研究の成果と課題

仮説1. の手立てに対する成果 (○) と課題 (▼)

価値ある「ざっくばらんな関わり合い」を取り入れた授業を行えば、多様な資質・能力が育まれ、運動大好きな児童を育成することができるだろう。

- 価値ある「ざっくばらんな関わり合い」を取り入れたことで、活気のある授業（力いっぱい運動する）や学びのある授業（新しいことを発見する）、歓声のある授業（友達と仲良く）になった。児童間の関わり合いの様子を観察すると、学習が進むにつれてアドバイスの内容がより具体的になっていたり（→思考力・判断力・表現力等の伸び）、目標をもって主体的に運動に取り組む姿が見られたりする（→学びに向かう力、人間性）等の変容が見られた。
- 令和3年度の児童へのアンケートの結果と比較し、令和5年度は「運動と外遊び好き」「体育好き」の数値が大きく向上した。

以上のことから、これまでの取組は運動好きな児童を育成することにつながったといえる。

- ▼ 価値ある「ざっくばらんな関わり合い」を取り入れることが目的になってしまい、伸びのある授業（技を高める）において課題が残った。「ざっくばらんな関わり合い」は児童の学びを支える手段であることを念頭におき、教材研究や授業づくりを進めていく。
- ▼ 「運動好き100%」には届かなかった。きらいだと答えた児童は、運動すること自体に苦手意識や面倒臭さを感じている。好きだと答えた児童が理由として挙げている「できた喜び」や「やりがい」をいかに感じさせるかが重要となる。価値ある「ざっくばらんな関わり合い」を通して、知識及び技能を身に付け、さらにその成長を児童自身が実感できるような教師の働きかけや教材・教具の工夫等を研究していく。

仮説2. の手立てに対する成果 (○) と課題 (▼)

教科外での体育的活動を充実させれば、成功体験を積み重ねられ、目標や困難に立ち向かう児童を育成できるであろう。

- 本校の体力課題に合わせた「なりスポ」や「業間運動」を実施した。種目を設定する際に、数値の向上をねらいとするのではなく、運動の生活化をねらいとしたことで、目標に向かって運動に取り組む児童が増え、新体力テストの数値が向上した。
- 体育的行事等を通して、目標への意識とその達成に向けて努力することを継続的に指導した結果、困難を感じても諦めない姿や児童間で励まし合う姿、目標達成のために何をすべきか自ら調べ取り組む姿が増えた。また、それらが成功体験につながり、さらに高みを目指すという良い循環が生まれてきている。

以上のことから、目標や困難に立ち向かう児童を育成できたといえる。

- ▼ 児童の姿を客観的に見た様子での判断であり、児童がどのように感じているかについてのデータはない。教師からの一方的な指導にならないよう意識するとともに、児童が自分自身の伸びや変化、達成感等を感じることができるような指導方法や取組を考えていく。

2年生の実践

マットを使った運動遊び

「彦成忍術学園 忍たま2の2!～いざ、最高の忍者へ!の巻～」

授業者より ～授業を終えて～

本単元は「マット運動の基礎感覚や粗形態を身に付ける」「きく、教える、一緒に考えることで集団達成を味わわせる」「単元ゴールまで興味を高めてつなげる」という願いが根底にあった。

上記を達成する手立てとして、「修行の場を意図的に設定することで、遊びながらねらった動きをすること」「グループで遊び方を考えたり、友達のよい術（動き）を真似したり、やり方をきいたり教えたりできるようにすること」「忍術修行というストーリーにのせること」を実践した。

2年生における「ざっくばらんな関わり合い」を模索しながら行った。本単元を授業する中で自然に関わり合い、友達の挑戦に悔しい表情や喜びの拍手を送る姿を育てることができた。助言し合うというよりは、友達との関わり合いでできそうな気がしたり、できるようになったりするという自然な声のかけ合いやその過程が本学級の「ざっくばらんな関わり合い」であると考えている。反省点や改善点は、今後の実践に活かしていく。



リズムダンス



変化の術（感覚つくりの運動）



師匠から弟子達へ任務の伝達

協議内容・ご指導いただいたこと

①教材の工夫

- ・「忍術修行」という設定が意欲につながった。意図的な条件設定の場を設けたことで、ねらった動きが自然に表出した。
- ・一つ一つの場をせばめ、よりたくさんの条件の場を設けることで、さらに細かいところまで粗形態をねらった動きを出せたのではないかな。



逆さま忍術修行



まきびし避け修行



レーザー避け修行



修行場 Ver.2（合体）

②ざっくばらんな関わり合い

- ・「カッコいい」「やってみたい」という真似をしたい気持ちや、積極的に互いに聞いたり教えたり一緒に動きを考えたりしようとする姿が見られた。
- ・動きの紹介をもっと広めると、正解を一つと考えずに、子供達の中で考えた動きの幅がより広がったのではないかな。



どうやって転がればいいのか？



あの忍術はどれだ？やってみよう！



二人でやる忍術もおもしろいね！

5年生の実践

マット運動

「膝ピン！繋げて魅せる！組ンピック！」

授業者より ～授業を終えて～

本授業では、「安定した伸膝後転をしたり、他の技との組み合わせをしたりできるようにする」というゴールに向かって授業を進めた。また、体育の授業に対して児童は、技能の向上だけではなく友達との関わりを重視していたため、ペアやグループでの「ざっくばらんな関わり合い」ができる場面を多く設定した。児童同士で具体的なアドバイスをすることができるよう、児童から出た技のポイントを掲示したり、手本動画を流したりして授業を進めた。また、スモールステップで技能のポイントを押さえていくことで、児童に着実な技能の向上の実感を味わわせながら毎時間授業を実践した。

「ざっくばらんな関わり合い」について、ペアやグループで積極的に具体的なアドバイスをしている様子が多く見られた。しかし、話し合いに時間がかかり運動量を十分に確保することができない様子もあった。反省点や改善点は、今後の実践に活かしていく。



児童から出た技のポイント



演技を実際に見てアドバイス

協議内容・ご指導いただいたこと

①教材の工夫

- ・児童の発言をふんだんに使った掲示物が有効だった。児童同士の言葉だからこそ伝わる表現がある。
- ・タブレットの追いかけて再生が有効だった。撮影直後に再生されることで時間の無駄が生まれない。
- ・伸膝後転ができない児童に対して、「できた！」というような一工夫があるとよい。

②ざっくばらんな関わり合い

- ・自分の演技で見たいところを明確にすることで、そこに焦点を当てた話し合いや教え合いを自然とする姿が多く見られた。
- ・グループの中でも話し合いができる子とできない子の差があったため、体育授業だけでなく他授業でも話し合い活動を続けていくとよい。



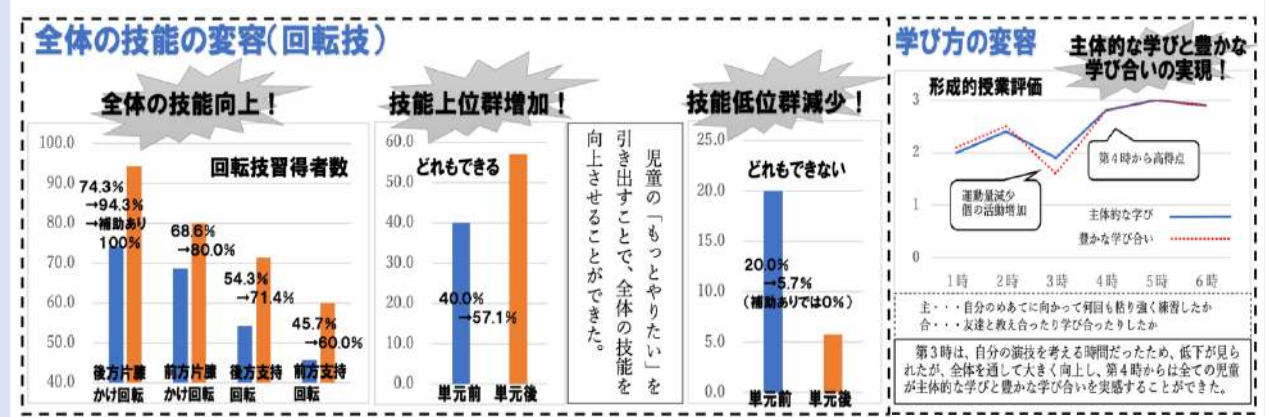
ペア⇒全体での見合い

5年生の実践

鉄棒運動

「主体的に学び、みんなでつくり上げよう鉄棒演技」

授業者より ～授業を終えて～



「主体的な学び」と「ざっくばらんな関わり合い」を軸にした鉄棒授業を展開していった結果、全体の技能が大きく向上したことがわかる。また、学習カードの記述において、第1時では「〇〇がスムーズにできた」と簡素な記述していた児童が、第4時になると「〇〇をもっとスムーズにするために、次の時間は□□を××するように気をつける」と具体的な記述をするようになっていた。このように、単元前半で身に付けた知識及び技能等を自分のオリジナル演技に応用できるようになったことから、思考力・判断力・表現力等も高めることができたと考えられる。本単元において追求した「主体的な学び」と「ざっくばらんな関わり合い」は、学びに向かう力、人間性等の向上にも大いに役立った。形成的授業評価により、「自分のめあてに向かって何回も粘り強く練習したか」と「友達と教え合ったり学び合ったりしたか」の2つの項目が大きく向上したことがわかった。学びのサイクルによって「つかむ」「考える」「試す」の学習の流れを確立したことや、1人で学ぶか友達と学かの学習形態を自分で選択することができるようにしたことが、この変容をもたらせたと考えられる。

以上のことから、「主体的な学び」と「ざっくばらんな関わり合い」を軸とした鉄棒授業の実践により、児童の資質・能力を育む結果につながったことがわかった。今後は、6年生に向けてさらなる技能の向上を図るべく、技の技能分析に力を入れ、「主体的な学び」と「ざっくばらんな関わり合い」を他単元、他教科においても実践し、授業スタイルの確立を目指していきたい。

協議内容・ご指導いただいたこと

①教材の工夫

- ・学びのサイクルの流れは理想的で、また、汎用性がある。学習の流れを掴むことができ、どの活動でも生きてくる。
- ・学びのサイクルのホワイトボードがあることで、教師の指導がしやすくなり、学び合いにも生きていた。
- ・技能の低い児童が多い学級で生かせるかどうかは課題である。

②ざっくばらんな関わり合い

- ・学び合いゾーンにおいて、児童同士の声掛けの質が高かった。学ぶべきことをしっかりと学んでいる。
- ・主体的に学習形態を選択しているからこそ、学び合いに必要感があつた。
- ・ゾーンでの滞在時間の管理をしないと、ずっと1人で練習する児童が出るのではないかと。

● けやき学級の実践

キャッチソフトバレーボール
「キャッチ キャッチ アタック！」

授業者より ～授業を終えて～

- ・全員揃って学習することがなかなかできず、積み重ねが難しかった。欠席や交流の児童を考慮した単元計画にすればよかった。
- ・1～6年生が在籍しているため、共通目標を立てることも難しかった。児童の実態から、特別支援学校学習指導要領ではなく、小学校学習指導要領体育編（中学年）を参考にした。上級生は活躍することができたが、下級生には難しかったのではないかと思った。
- ・個別の目標が児童の実態に合った目標だったのか、個別の目標の立て方を知りたい。



協議内容・ご指導いただいたこと

①教材の工夫

- ・ゲームのルールを工夫し、一人一人がどういう役割で行っていくかがよく考えられていた。
- ・ボールに慣れるためにソフトバレーボール用のボールを主に使用した。今後そのほかのボール等も使う機会を設けたい。
- ・ラリーが続かなかったので5, 6年生には物足りなかったのではないかと。ネットの高低差をいかし低学年への配慮を考えたルールもあるのでは。
- ・今までの学習の流れや良い動きの掲示が、写真を使っていて分かりやすく、温かい言葉もありよかった。

②ざっくばらんな関わり合い

- ・「やったね」「ナイス」などの声掛けを掲示し振り返ることで、温かい声掛けに気づき児童同士で自然と声掛けをするようになった。
- ・作戦タイムではホワイトボードや作戦カードを活用することで、チーム同士の作戦を立てる際に意見を話しやすくしたり見て理解できるようにしたりすることができた。いつもはなかなか話し合いに参加できない児童も、頷いたり「いいね」と言ったりする様子が見られた。授業の振り返りの際にも、自分のことだけでなく友達のよいところを見つけて伝え合うことができた。



学習の積み重ね



作戦タイム

1年生の実践

的当て遊び

「さがして！あてて！モンスターハンターになろう！！」

授業者より ～授業を終えて～

本単元では、「的当て遊び」の中で、ねらったところにボールを投げたり当てたりする活動を行った。その中で6つのローテーションの場を作り、様々な投げ方をすることができるように工夫した。

チームをつくって活動したことは本単元が初めてだったため、個人での学びから他者と関わり学び合う授業になるように、授業終わりに友達同士のよかったところや頑張ったところを共有する時間を設けた。授業が進み、友達の動きを真似したり作戦を考えたりする中で、徐々に他者とのやり取りが増えていった。単元後半では、自然と話し合ったりアドバイスをしたりする児童が増え、関わり合う機会がよく見られた。

単元を進めていく中で、意図した動きとは異なる動きを考えたり変化を付けた投げ方をしたりする児童が出てきたため、場の難易度を変えたり意図する動きの児童を抽出して見せたりすることが必要であった。また、遊びの中で動きや投げ方が変化している児童に対する声掛けを工夫する必要があると感じた。

協議内容・ご指導いただいたこと

①教材の工夫

- ・モンスター退治という世界観を作り、児童の意欲を高めていた。
- ・様々な場があり、楽しみながら全力で活動することが出来ていた。
- ・ローテーションの中にも区切りを入れて、投げ方を変えたり真似をしてみたりするとさらに効果的だったのではないか。



モンスターに捕まった動物を救出！



6つのローテーションの場 (左) パウンド (右) 動局的



②ざっくばらんな関わり合い

- ・チームごとに活動したことで、友達の投げ方を真似したり負けないように高め合ったりすることができていた。
- ・授業を進めていく中で、子供達から「一緒に投げよう！せーの！」「手を前に出すと遠くに飛ぶよ！」等の声かけが出てきて、自然に関わり合う姿が増えた。
- ・授業の終わりに頑張っていた友達を発表させたことで、周囲の人に目を向けることができた。



4年生の実践

跳び箱運動

「有言実行！のばせ！跳び箱運動」

授業者より ～授業を終えて～

本単元を行うにあたり、「クラス全員、開脚跳びをできるようにしてほしい」「自分に見合った課題を設定し、解決していくことで達成感や喜びを感じてほしい」「児童同士の伝え合いを軸に授業を進めたい」という3つの思いをもって臨んだ。

「クラス全員、開脚跳びをできるようにしてほしい」という部分では、開脚跳びができなかった最後の一人が、本時で開脚跳びをできるようになった。手作り教材が効果的に働いたように感じる。

「自分に見合った課題を設定し、解決していくことで達成感や喜びを感じてほしい」という部分では、タブレットで毎時間動画を撮影し、保存していたことが効果的であったと思う。一方で、課題の設定、練習方法等、児童任せになってくる部分も多いため、児童の課題や思考を把握するためには、教師からの声掛けをさらに多くする必要があると感じた。また、児童が撮影した動画を教師が共有することで、個々の技能、技能の伸び、技能に見合った課題を設定できているかを把握しやすくなった。

「ざっくばらんな関わり合い」という部分では、「学級づくり」と「児童の知識」が絶対的に必要だと感じた。本単元・本時を通して、できていないとは感じなかったが、児童同士で「質問できる・伝えられる・真剣に取り組める」学級づくりと、「課題の見付け方・練習の仕方・技の見方・質問の仕方・伝え方・教え方」等の児童の知識は、改善と成長の余地があると感じた。

協議内容・ご指導いただいたこと

①教材の工夫

- ・タブレットで撮影した動画が、児童同士が伝え合うための一つのツールとして意味を成していた。
- ・タブレットの操作を身に付けさせるには時間がかかるが、やっておけば次年度以降できることが増える。
- ・手作り教材（縦が短い跳び箱）はスモールステップとしての役割があり苦手としている児童にとっては、効果的だった。



手作り教材

②ざっくばらんな関わり合い

- ・児童同士で、疑問に思うことや動画を見て気が付いたこと等を伝え合い、知識・考えを深めている姿が見られた。活動の中身を児童に任せる時間があつたことが効果的だった。
- ・コロナ禍で難しい部分はあるが、児童同士の補助があるとさらに子供たちの技能が伸びそう。例えば、背中を指し本で押すだけでも効果がある。



6年生の実践

ボール運動（ゴール型） バスケットボール
「勝利のシュートを決めろ！彦成バスケットボール」

授業者より ～授業を終えて～

単元前の実態から、①状況を素早く判断し、ゲームで実際に活用できる知識・技能の定着をさせ、一人一人にシュートを打たせたい②毎時間の学習課題に一人一人が必要感をもち、バスケットボールの特性や魅力を味わいながらゲームに参加させたい、という思いをもって授業づくりに臨んだ。

単元が進むごとに終始諦めないでボールを追う児童の姿が増えた。何より「嫌い」と答えた児童が、何度もシュート打って喜ぶ姿や、教室に戻っても「早くバスケがやりたい」と言っている姿を見られて、この授業をやった良かったと素直に思えた。

本時のめあては「ゲームで選んだ作戦を実践したときの課題を伝え合い、作戦を修正しよう。」であった。チームメンバーカルテや作戦ボードを用い、根拠をもちながら作戦会議が出来ている児童が多かった。しかし、実際に選んだ作戦が試合で決まった回数は決して多くはなく、選択肢として与えた作戦が本当にシュートに結びつくものであったのかと、大きな反省が残った。

協議内容・ご指導いただいたこと

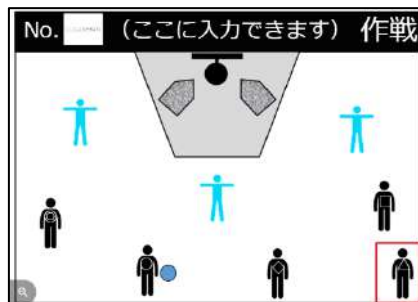
①教材の工夫

- ・第1時では、身近な教師示範の試合映像を見ることは有効であった。また、つながりのある学習過程も児童にとって、主体的に取り組めるものになっていた。
- ・メインゲームに直結するドリルゲームをテンポよく価値のあるものだった。
- ・ハーフコートから簡易的なオールコートと、前半は簡単に、楽しめるルールで行っていたことは良かった。しかし、ゲームが難しくなることは児童にとっては本当に大変なこと。単元の半分半分で切り替えるのではなく、もっと早い段階から、オールコートに切り替えることも、児童の実態によってはいいときもある。



②ざっくばらんな関わり合い

- ・「チームメンバーカルテ」や、タブレット（スクールタクト）で作成した教具「チーム作戦ブック」を活用しながら、話し合いを進めることができていた。
- ・本時のめあては「作戦の修正（思・判・表）」。振り返りは、「修正できたか」よりも「どうやって修正したのか+理由」「何を伝えたのか」の方がいいのでは。振り返りが本時のめあてともっと正対しているとよい。



3年生の実践

マット運動

「回って回って全員合格！マット運動攻略本をつくろう！」

授業者より ～授業を終えて～

本単元では、「2年生のために『マット運動攻略本』をつくる」というゴールに向かって授業を進めた。第1時で2年生からのメッセージ動画を視聴させたことで、目指すゴール像が明確になり、単元を通して意欲的に学習に取り組むことができた。

従来の学び合いは見ている側がアドバイスをするのが通例である。しかし、本単元では、演技後に観察者が演技者に「どうだった？」と聞くようにすることで、対話を生み出すことができるように工夫をした。演技者は自分の技の出来栄えについて振り返りながら演技をすることで、自身の課題を常に意識しながら取り組むことができるようになった。また、児童から出た効果的な言葉を掲示することや、ICTを活用し、お手本動画と自分の演技を比較することで、対話を活性化させる一助とすることができた。しかし、児童同士で友達の技を正確にチェックするのは大変難しいことである。だからこそ、今後も、友達の技を見る機会を増やし見る目を育てていきたい。反省点や改善点は、今後の実践に活かしていく。

協議内容・ご指導いただいたこと

①教材の工夫

- ・2年生への攻略本を作るという必要感があり、ねらいを焦点化することができていた。
- ・子どもたちが運動したいと思える仕掛け（教具や活動）がたくさんあった。
- ・単発の技のみの授業展開なので、連続技を少し取り入れても良いのではないか。
- ・感覚つくりにおノマトペを用いることで、子どもたちが親しみやすいものになっていた。



ねらいを焦点化した導入



活動の場の工夫 (左) 障害物の場 (右) 足タッチの場



②ざっくばらんな関わり合い

- ・単元計画に沿って毎時間丁寧に指導されていたため、子どもたち同士の伝え合いの中でポイントやコツを細かく伝え合うことができていた。自由な話し合いではなく、本時のねらいを理解してざっくばらんな関わり合いをすることができていた。
- ・観察者が「どうだった？」と尋ねることにより、子ども同士の話し合いが生まれていた。会話が一方通行にならず深め合っていたため、効果的であった。



6年生の実践

ボール運動(ネット型) ソフトバレーボール
「みんなでつなげ!ソフトバレーボール」

授業者より ~授業を終えて~

本授業では、「仲間とボールをつなぐ楽しさを味わわせること」「得点をとるためにスムーズにつながること」の2つを単元のねらいとして授業を進めた。このねらいを達成するためにドリルゲームの中でサーブ・レシーブ・アタックの最低限の技能の習得を目指し行った。定着した児童も見られたが、身に付けさせる技能を絞り、よりルールを易しくすることでさらに仲間とボールをつなぐ楽しさを味わわせることができたと感じた。

また、ざっくばらんな関わり合いを実現するために、チーム分析カルテを活用したことで自分やチームの特徴を伝えることができていた児童が多く見られた。作戦を立てる際も、アタックカルテやチーム分析カルテなどを用いることで根拠をもった伝え合いを実現することができた。ボールをつなぐことに意識が向きすぎたゆえにチームでの声かけや作戦の指示の声が少なかったように感じる。ボールをより軽いものにしたたり、ワンバウンドを可能にしてルールを易しくしたりすることで、ゲーム中も少し余裕をもって取り組むことができるようにするとさらに関わり合いが生まれると感じた。

協議内容・ご指導いただいたこと

①教材の工夫

- ・手作りの教具がとても効果的だった。何が子どもたちのためになるのか考えて作られていた。
- ・学び方が確立されている(子ども達自身も体育の流れを知っている)。学び合い・助け合い・磨き合いが体育授業ではとても重要である。
- ・高学年体育は中学校体育へのつながりを見据えて計画する必要がある。中学校体育指導要領を確認してみると良い。



グリッドで分けたコート



手作りのネット(高さの変更可能)



②ざっくばらんな関わり合い

- ・「チーム分析カルテ」や「アタックカルテ」を使うことにより、自分の特徴を見つけることが苦手な児童も自分の特徴を把握し、自分の役割を選択したり、チームのメンバーの特徴等を伝えたりする一助となっていた。
- ・思考を促すような発問とめあてにし、チームで考えた結果を全体で共有することを継続することで、話し合いが活性化されていた。



● ご指導いただいた先生方

■令和4年度

埼玉県教育局 県立学校部 保健体育課 長	松中直司様
埼玉県教育局 県立学校 保健体育課 教育指導 幹	大松武晴様
埼玉県教育局 県立学校部 保健体育課 学校体育担当 指導主事	木下隆弘様
埼玉県教育局 東部教育事務所 教育支援担当 指導主事	平澤亜美様
三郷市教育委員会 教育 長	大塚正樹様
三郷市教育委員会 学校 教育部 長	魚躬隆夫様
三郷市教育委員会 学校 教育部 副部長	田口貴子様
三郷市教育委員会 学校 教育部 参事兼 指導課 長	菅原成之様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導係 長	矢野めぐみ様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 主任 指導主事	中山達也様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	加藤雄大様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	田平千恵様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	長嶋真平様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	嶋津輝夫様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	杉山雄哉様
三郷市教育委員会 教育 指導員	森雪広様
三郷市教育委員会 教育 指導員	三田博様
三郷市立彦系小学校 教頭	大貫義信様

■令和5年度

埼玉県教育局 県立学校部 参事兼 保健体育課 長	松中直司様
埼玉県教育局 県立学校 保健体育課 教育指導 幹	大松武晴様
埼玉県教育局 県立学校部 保健体育課 学校体育担当 指導主事	木下隆弘様
埼玉県教育局 県立学校部 保健体育課 学校体育担当 指導主事	亀山友宏様
埼玉県教育局 東部教育事務所 教育支援担当 指導主事	堀江亨一郎様
三郷市教育委員会 教育 長	大塚正樹様
三郷市教育委員会 学校 教育部 長	菅原成之様
三郷市教育委員会 学校 教育部 副部長	田口貴子様
三郷市教育委員会 学校 教育部 参事兼 指導課 長	西村美紀様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導係 長	矢野めぐみ様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 主任 指導主事	中山達也様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	加藤雄大様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	長嶋真平様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	杉山雄哉様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	柏ひとみ様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	桑島敦様
三郷市教育委員会 学校 教育部 指導課 指導主事	赤城雅史様
三郷市教育委員会 教育 指導員	三田博様

● 本研究に携わった職員

■ 令和4年度

校長	佐藤 孝祐	教頭	善田 真人	教諭	大兼政 直樹
教諭	小倍 正行	教諭	田中 淳子	教諭	阿久根 千由
教諭	榎本 友樹	教諭	青木 由佳利	教諭	伊東 亜紀
教諭	高野 知康	教諭	村川 由利子	教諭	朝倉 勇樹
教諭	秋元 拓也	教諭	香月 大輔	教諭	冨田 大道
教諭	松本 翔太	教諭	高山 展宏	教諭	島村 果歩
教諭	和栗 巧弥	教諭	染谷 美沙	教諭	井上 慎一郎
教諭	小番 隼人	教諭	松川 奈央	教諭	高瀬 実
拠点校指導教員	山谷 佳史	養護教諭	高野 諒子	事務主査	本橋 憲治
学校公務員	柴田 俊子	学校公務員	渡辺 康	一般事務	新井 美恵
図書館司書	坂田 晴美	A L T	エメファ アクパビリ		

■ 令和5年度

校長	佐藤 孝祐	教頭	善田 真人	教諭	高瀬 実
教諭	田中 淳子	教諭	阿久根 千由	教諭	榎本 友樹
教諭	青木 由佳利	教諭	伊原 ともみ	教諭	伊東 亜紀
教諭	村川 由利子	教諭	遠藤 あい	教諭	小番 隼人
教諭	石井 祐太郎	教諭	冨田 大道	教諭	日暮 友輝
教諭	朝倉 勇樹	教諭	松本 翔太	教諭	秋元 拓也
教諭	島村 果歩	教諭	和栗 巧弥	教諭	松川 奈央
教諭	井上 慎一郎	教諭	染谷 美沙	拠点校指導教員	山谷 佳史
養護教諭	山村 良枝	事務主査	本橋 憲治	一般事務	新井 美恵
学校公務員	柴田 俊子	学校公務員	渡辺 康	図書館司書	坂田 晴美
A L T	マイケル シュミット				



気力あふれる児童

～地域・家庭と共に、児童の非認知能力を育む学校～

